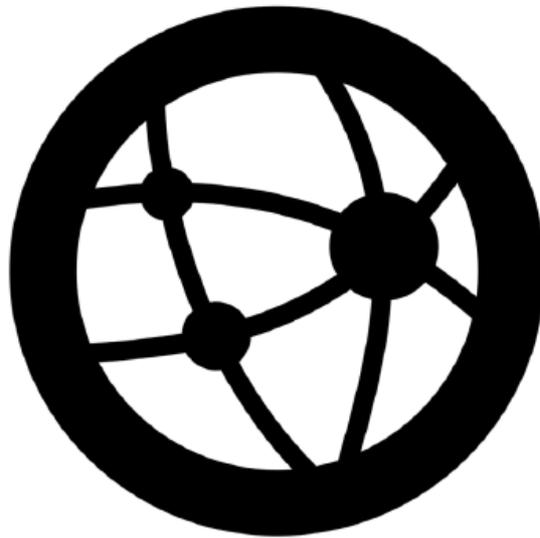




ANEMAN
Audio Network Manager

User Manual



Version 1.2.1



[イントロダクション](#)

[ANEMANとは？](#)

[システムに必要なもの](#)

[Release Notes](#)

[クイックスタート](#)

[ユーザー インターフェース](#)

[ワールド ビュー](#)

[Moving](#)

[Pin zone and Discovery zone](#)

[Subnets](#)

[Contextual menu](#)

[Zoom](#)

[Connexions](#)

[Zones](#)

[Logic Zone](#)

[Sample Rate Zone](#)

[Moving and Resizing the Zone](#)

[Zone のコンテキストメニュー](#)

[複雑なZoneのセットアップ例](#)

[デバイスの色つけ](#)

[マトリックス ビュー](#)

[The Info Box](#)

[Moving](#)

[IO表示を折りたたむ](#)

[コンテキスト インフォメーション](#)

[コネクションのタイプ](#)

[Apply Unicast:](#)

[Apply Multicast:](#)

[Unicast vs. Multicast](#)

[コネクションの追加と削除](#)

[Progressing Bar と waiting pop up](#)

[コネクションの色について](#)

[ストリーム](#)

[コネクション ステータスとエラー メッセージ](#)

[アウトプットステータスとレシーバー 消去](#)

[Advanced operations](#)

[Dante/AES67 and SAP](#)

[制限](#)

[ANEMANのメニュー](#)

[Actions](#)



[Refresh Network Map](#)
[Save Connections](#)
[Recalling configuration](#)
[Clearing selected / all connections](#)

[View](#)

[Settings](#)

[Dock icon](#)

[Restore or Save appearance](#)

[Debug](#)

[Log Window](#)

[Dump Network Map](#)

[Plugins](#)

[プラグイン のマネージメントとデバイス アイコン](#)

[Plug-insの消去](#)

[Zones](#)

[Advanced configuration of zones](#)

[Easy Connect Replacement](#)

[ANEMANをPyramix/OvationのEasy Connectの代わりに使用する](#)

[Inputs と Outputsのコネクション :](#)

[Force devices to follow the same sampling rate:](#)

[How to Clear Connections:](#)

[ビデオ リファレンス, LTC In, LTC Outのコネクション :](#)

[トラブルシューティングとエラー](#)

[ANEMANで報告されるError](#)

[コネクションできない](#)

[ストリーマー / レシーバ エラー コード](#)

[Debug features](#)

[Simulation files](#)

[Configuration file](#)



イントロダクション

ANEMANとは？

MergingのAudio NEtwork MANagerは、ネットワーク上のデバイスの検出、コネクションの管理、モニターを行うシンプルなツールです。サードパーティの互換性またはアドホックユーザーインターフェイスを追加するためのモジュールをサードパーティが追加できるオープンアーキテクチャに基づいています。

この1.0.0リリースでは次のリストのデバイスに制限されています：

- Merging NADAC と NADAC Player, Merging HORUS, HAPI audio converters
- Merging MassCore, OSX VAD, ASIO Virtual Driver, ALSA driver
- Direct Out Monotone 42 **
- Neumann DMI-8 *
- Digigram LX-IP サウンドカード,* IQOYA range *
- Digigram IQOYA レンジ (プラグイン)*

(*：プラグインがインストーラーに含まれていない場合があります。製造メーカーにお問い合わせ下さい)

(**：プラグインはアプリケーション内のPlig-in manager からダウンロードできます)

システムに必要なもの

ANEMANは、Windows 7 (64bit), Windows 10 (64bit), Mac OS 10.10以降に対応しています。

最小限の必要なもの：

2GHzのCPU, 4GB RAM, 100MBのディスクスペース

ネットワーク コネクション (コンパチブルなデバイスがネットワークに接続されていること)

注意：ANEMANを接続するとネットワークにサイドエフェクトが起こり、ストリームを一時的に壊す事があります。



Release Notes

Fall 2019 1.2.1 release

- macOS Mojave 10.14.x Support
- Improvement. Enhanced plugins discovery
- Improvement. Device coloring for matrix
- Improvement. Receiver deletion
- Improvement. Device error now reported in the Matrix
- Fixed. Plugin and Proxy installation issue
- Fixed. Disabled Dock mode per default
- Reliability fixes.

July 2019 1.2.0 release

July 2019 – 1.1.10 RC1 release

- Fixed: MERGING+ANUBIS Premium DXD overrun error
- Ross devices plugin support
- Log clean up

Mai 2019 – 1.1.8 Beta2 release

- New: MERGING+ANUBIS Support
- More improvement and reliability fixes

February 2019 – 1.1.7 Beta1 release

- New: ZOEM support
- New: Support for Unicast
- Zone Improvements
- Quick access menu improvements
- Add/delete connection fixes
- Bonjour discovery multi-network interface issue fixed
- ANEMAN slowdown order time issue fixed.
- Improved general stability
- Mac installer enhanced reliability More details on www.aneman.net

June 2018 - 1.1.6 Spring 2018 release

- New Settings menu:
 - Save and Recall application Windows setup
- Zone Improvements
 - Store and Recall Zone configurations
 - Display of current Sampling Rate
 - Quick access menu
- Errors reports
- New Always run mode, ‘Dock icon’ within tasks
- Better icons for unknown products
- Improved stability



November 8th 2017 – 1.1.5 Fall 2017 release

- MDNS discovery is now properly done when device name has some dots in it
- SAP announcement Discovery bug fix
- Improved stability

September 14th 2017 - 1.1.0 IBC2017 release

- Stream deviceの修正：互換性のあるデバイス間でストリーム内のトラックを接続できます（8トラックストリームから2つのトラックを接続）。
- Dante / AES67：Dante / AES67ストリームは、ANEMANのスタンドアロンデバイスとして表示されます。
- 安定性の改善。

June 19th 2017 - 1.0.0 RC1

- プラグイン マネージャー
- Busy アウトプット インジケータ
- Matrix Viewで出力に添付された受信機を削除する可能性

May 30th 2017 - 1.0.0 Beta 2

- Mac Installer (OSX 10) が利用できます。
- スタビリティの改善
- パフォーマンスの改善
- デバイスはゾーンが決まると配置が調整されます
- マスターが存在していて、ゾーンの状態がそれぞれ良好または悪い場合、ゾーンマスターセクションは緑色または赤色に変わります。マスターが存在しない場合、マスターセクションはニュートラルカラーのままです。
- デバイスに送信されるのを待っているアクションを監視するプログレスバーを追加
- ワールドビューで作業するときに自動ズームを防止するための"auto zoom"オプションが追加されました
- Infoボックス(Matrixビューの左上)に接続ができない場合にベターなフィードバックが表示されます
- (片側が折りたたまれ、反対側が展開されている) セルをクリックすると、マトリックスセルが自動的に展開されます。
- UIの色とコントラストの改善
- ファイルはAppData / Merging Technologies / Aneman に保存されます (以前は AppData/Aneman)

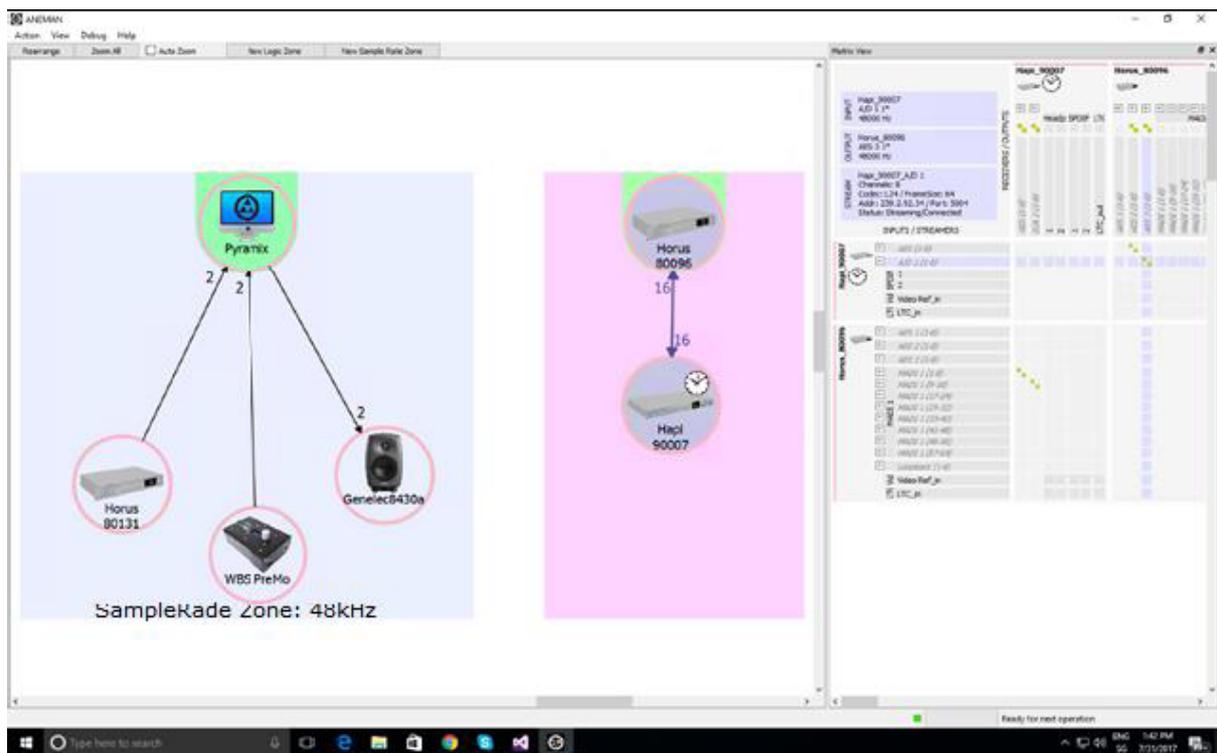


クイック スタート

ユーザー インターフェース

ANEMANは3つのメイン ウィンドウで構成されています。

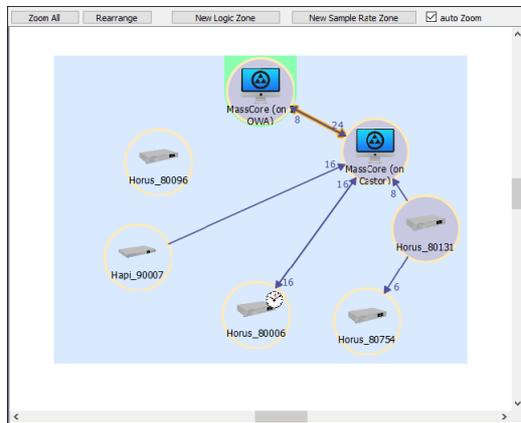
- ワールド ビュー (左上) : ここではデバイスを検知し、zoneに入れることができます。v1.0.0にはLogic zoneとsample rate zoneがあります。
- デバイス リスト (左下) : ここにはネットワーク上のデバイスと基本情報がテーブルになって表示されています。
- マトリックス ビュー (右) : 選択したデバイスがマトリックス ビューに表示され、add, remove やコネクションのモニターができます。



Merging Technologies以外のデバイスを使用する場合は、適切なプラグインを Plug-in Manager (Actionメニュー) ダウンロードしてください。



ワールド ビュー



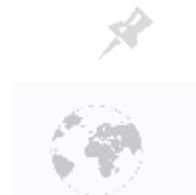
デバイスがネットワーク上で検知されるとワールドビューに現れます。全てのRavennaデバイスはここに表示されますが、サポートされているデバイスのみがソフトウェアでフルにコントロールできます。

Moving

背景を右クリックするかControlを押しながら左クリックするとワールドビューを動かすことができます。デバイスは左クリックでドラッグすると移動でき、スクロールでズームできます。

Pin zone and Discovery zone

ネットワーク上で検知されたデバイスはDiscovery Zone（グレイの背景）に置かれます。デバイスが位置を保持し、オフライン時に表示されるようにするには、デバイスをPin Zone（白い背景）に移動できます。



Subnets

デバイスの周りの円の各色はサブネットを示します。異なるサブネットのデバイスを一緒に接続することはできません。

Contextual menu

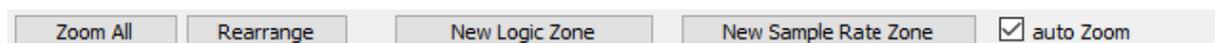
デバイスを右クリックするとコンテキストメニューが開き、デバイスで公開されているWebサービス（HorusのベーシックWebページやAdvanced Webページなど）にアクセスできます。Webサービスは、ダブルクリック（ベーシック）およびctrl +ダブルクリック（アドバンス）でアクセスすることもできます。

注：ワールドビューでデバイスをダブルクリックすると、現在の選択が失われます。

Zoom

ビューを拡大するには、スクロールホイールまたはタッチパッドスクロール機能を使用します。

ソフトウェアは、新しいデバイスが追加されたとき、またはメジャーアップデートがネットワーク上で行われたときに、自動的にワールドビューをズームアウトします。自動ズームオプションをオフにすると、この動作を防ぐことができます。ビューを並べ替えるには、“zoom all”と“rearrange”ボタンがあります。

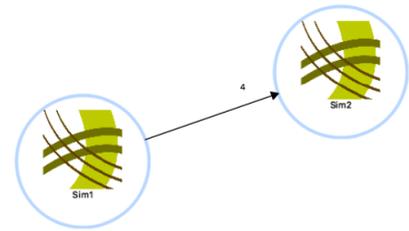




Connexions

デバイス間にコネクションを行うとワールド ビューにリンクが現れます。このリンクは全てがOKの場合黒色で、コネクションが壊れた場合赤色で表示されます。

矢印の近くにある数字は、2つのデバイスの InputとOutput の数です。



Zones

ワールド ビューの機能の1つにデバイスをサブグループや<<Zones>>に分けることです。v1.0.0では2つのタイプのzoneを提供しています：Logic Zone と Samplerate Zone です。

New Logic Zone

New Sample Rate Zone

Logic Zone

ロジックゾーンは見た目の目的にしか使えませんが、ネットワーク上のデバイスを配置することができます：場所、機能など

例えばロジックゾーンを使用して、同じスタジオ内のデバイスを識別することができます。

Sample Rate Zone

Sample Rate Zoneは、デバイスがすべて同じサンプルレートを共有する、特別なLogic Zoneです。Merging Easy Connectの Easy-Force Allオプション（サンプルレートとレイテンシーモードに従います）と似ています。

グループ内のいずれかのデバイスをマスターとして選択し、ゾーンの上中央（マスターゾーン）に配置します。ゾーン内の他のデバイスはすべてスレーブになります：

- マスターのサンプルレートが変更されると、スレーブも変更されます。
- スレーブのサンプルレートを変更すると、ゾーンのサンプルレートに戻されます。

ゾーンが Master を受け入れた場合、Master ゾーンが緑色または赤色に点灯します。緑色はグループが正しく動作していることを意味し（すべてのデバイスが同じサンプルレートを持った状態）、赤色は少なくとも1つのデバイスがマスターのサンプルレートに従っていないことを意味します。

注意：デバイスの中には、ゾーンのサンプルレートに対応できないものがあり、すべての場合にマスターに従うことができない場合があります。

Moving and Resizing the Zone

Zoneの中央部を Shiftを押しながらクリックすると移動させることができます。サイズ変更は、Zoneの境界線をShift+左クリックして行います。

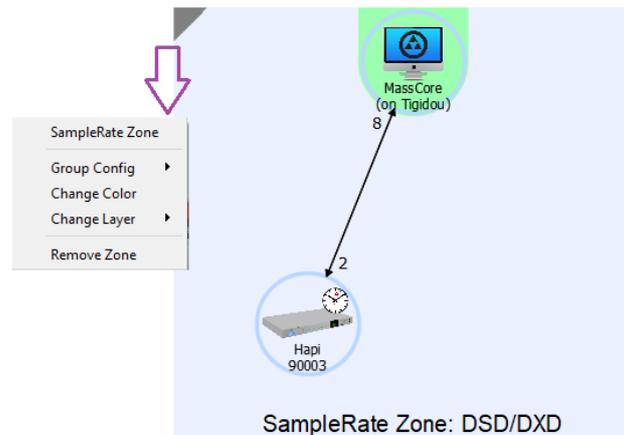


Zone のコンテキストメニュー

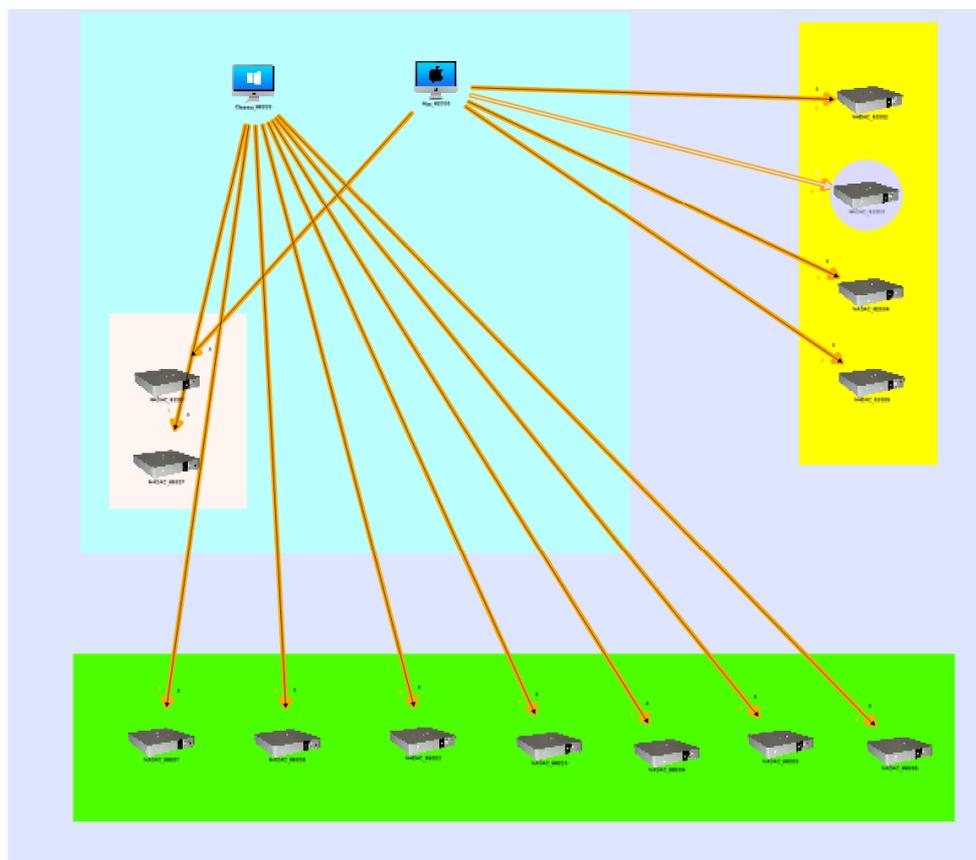
Zoneのコンテキストメニューは、ゾーンの左上にある三角形からアクセスできます。

ゾーンのコンテキストメニューを使用して、背景色やレイヤー（ゾーンの順番）を変更できます。また、Zoneを削除することも可能です。

ゾーン設定を保存または呼び出すには、ゾーンを右クリックして Config を Store または Recall オプションを選択します。これにより、特定のゾーンの接続を保存または呼び出すことができます。



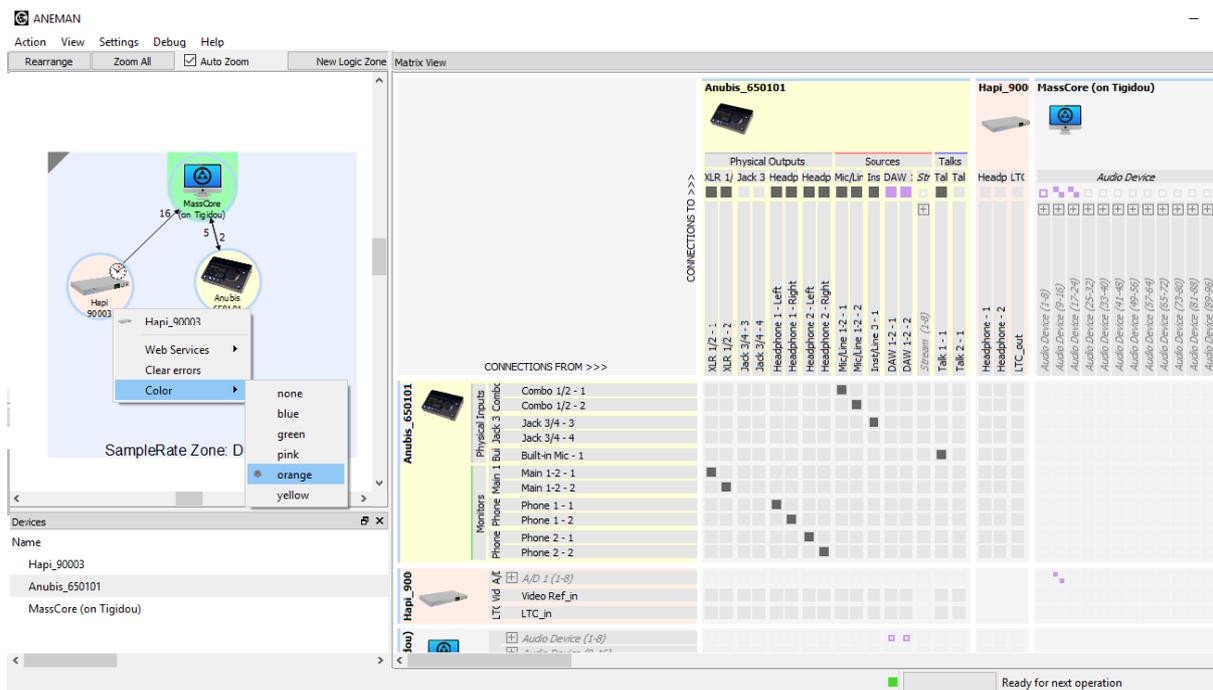
複雑なZoneのセットアップ例





デバイスの色つけ

ANEMAN v1.2.1 ではワールドビュー内のデバイスに色を付けることができるようになりました。これらの色はマトリクスにも反映されます。



色付けを行うにはデバイスを右クリックして色を選択してください。



マトリクスビュー

ワールドビューやデバイスリストで選択したデバイスは、マトリクスビューに現れます。

The Info Box

マトリクスビューの左上にはInfo Boxがあり、InputsやOutputs, Connectionに関する様々な情報を表示します。

Moving

背景を右クリックすると、マトリクスをブラウズ（スクロール）できます。

IO表示を折りたたむ

入力と出力のグループは、デフォルトで8チャンネルのグループで表示されます。Input部やOutput部の+をクリックすると広がって表示されます。Shiftを押しながら"+"または"-”をクリックすると全てのInputまたはOutputが広がり / 折りたたみます。

セルを**Control + クリック**するとInputとOutputのバンクが同時に広がり / 折りたたみます。

コンテキストインフォメーション

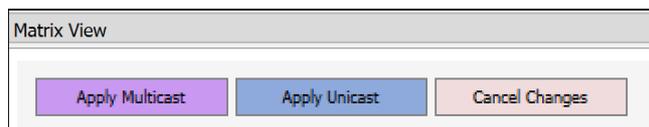
接続ポイントをホバリングすると、関連する入力、出力、およびストリーム（接続があれば）に関する情報が表示されます。インフォボックスが緑色に点灯すると接続が可能になり、赤色に点灯すると接続できません。コネクションができないのは：

- デバイスが同じサブネットにない場合
- デバイスが同じサンプルレートでない場合
- 出力が既にストリームを受けている場合



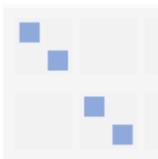
コネクションのタイプ

ANEMAN v1.1.7以降、Unicastをサポートするデバイスを使用しているユーザーには、Matrix Viewに新しい接続オプションが表示されるようになりました。



Apply Unicast:

Unicast の送信/ストリームは、ネットワーク上の単一の受信者にIPパケットを送信します。これは、送信者と受信者との間のポイントツーポイント接続を使用します。レシーバーが追加されるたびに個別の接続が追加されるため、ユニキャストストリームが追加されるたびにネットワークトラフィックが増加します (Horus / Hapiファームウェア3.9.3b38957以降が必要)。



Apply Multicast:

Multicastの送信は、ネットワーク上のホストのグループにIPパケットを送信します。送信側では、ストリームごとに1つの接続のみが必要です。ネットワークスイッチは、どの参加者 (受信者) が特定のマルチキャストを受信し、登録済みノードにのみパケットを転送する必要があるかを認識しています。マルチキャスト設定では、ネットワークトラフィックは、ネットワークパスの最後の (受信ノードに最も近い) セグメントでのみ増加します。



Unicast vs. Multicast



コネクションの追加と削除

マトリックスセルをクリックすると、保留中の接続の追加または既存の接続の削除が試行されます。追加または削除された接続は、ネットワークに送信される接続コマンドの << apply routing >> をクリッ



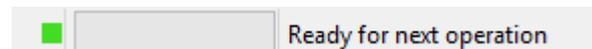
クすることにより、デバイスに一括送信されます。現在のルーティングをリセットするには、<< **Cancel routing** >> をクリックします。

折りたたまれたセル（折りたたまれた Input と output）をクリックすると、折りたたまれたサブマトリックスの8つの対角セルすべてで接続が自動的に作成または削除されます。

折りたたまれたサブマトリックスの接続が対角線でない場合、特別なアイコンが表示されます。

Progressing Bar と waiting pop up

アプリケーションウィンドウの右下には、ネットワークに送信される残りのアクションの数を示す進行状況表示バーがあります。何も操作が残っていないければ、“ready for next operation (次の操作の準備ができました)”と表示されます



残りのアクションの数が十分に多い場合、ウィンドウがポップアップし、ユーザーに待機するように要求されます。

コネクションの色について

パープルの接続ポイントは、マルチキャスト コネクションが<< OK >>を示します (v1.1.7以降)

パステルブルーの接続ポイントは、ユニキャスト コネクションが<< OK >>を示します (v1.1.7以降)

オレンジ色の接続ポイントは、不完全な接続を示します

明るい緑と赤の接続ポイントは、それぞれ追加または削除された接続を示します。

ストリーム

接続ポイントにホバリングすると、ユーザーは接続に関連するストリームを視覚化できます。同じストリームに属するすべての接続は、前ページのスクリーンショットに示すように四角になります。



コネクション ステータスとエラー メッセージ

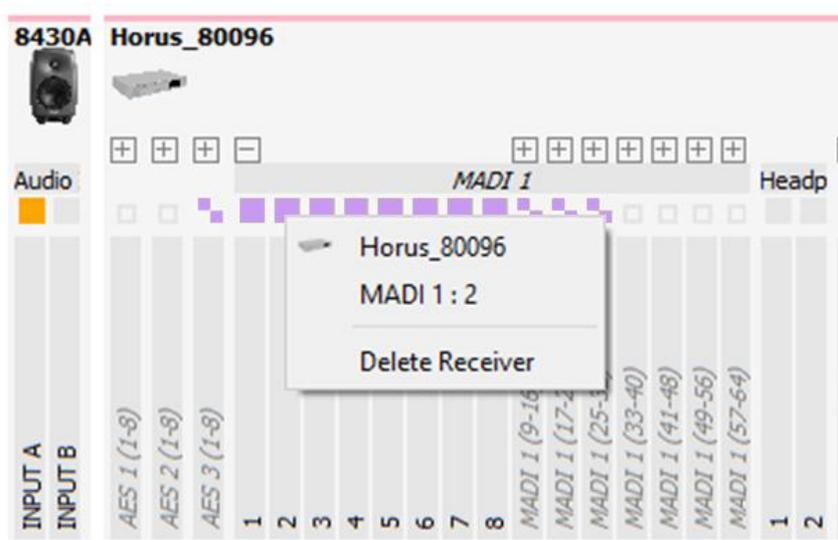
info box（マトリックス ビューの左上コーナー）にはコネクションに関する情報が表示されます。コネクションが不完全である場合、エラー コードとメッセージが表示されます。

アウトプット ステータスとレシーバー 消去

ストリーマが取り付けられていないデバイスに受信機が存在する場合があります。マトリックスの出力（ビジーまたはノート）のステータスを簡単に見つけることができます。この出力を右クリックすると、必要に応じて接続されたレシーバーを削除することができます。



いつものように、緑色の正方形の出力は受信機がストリームを受信していることを意味し、オレンジ色の四角はエラーを示します。





Advanced operations

Dante/AES67 and SAP

ANEMANはDante/AES67のストリームをネットワーク上で見つけ、World Viewにスタンドアロンのデバイスとして表示します。これらのデバイスは、ANEMAN互換機器に接続される入力のみを表示します。これはANEMANが、Dante Controllerの逆として機能することを意味します（Dante ControllerはAES67ストリームを検出し、それらをDante機器に接続します）。ANEMANと完全に混在したDante / AES67セットアップのためには、まだDante Controllerを使う必要があるでしょう。

制限

コネクションを適用しようとする、次の様な制限が適用されます：

- 同じ出力は2回接続できません。
- コネクションは、デバイスが同じサンプリングレートを持ち、同じIPサブネットに存在する必要があります。
- 入力デバイスと出力デバイスは同じであってははいけません。

ANEMANのメニュー

Actions

Refresh Network Map

UIがバグっぽい場合や正しくアップデートされない場合はこの操作でネットワーク マップを再ロードできます。

Save Connections

セットアップが終わったら**Save Connections**で保存できます。これにより**選択したデバイス間のコネクション**の状態が保存できます。

ネットワーク全体を保存したい場合は、デバイスを選択しないで（或いは全ての機器を選択して）ください。

Recalling configuration

Recall Configを使用すると保存したコネクションがリコールできます。Recall Configurationは現在のコネクションの上書きをしません。そのため、このコマンドを行う前に**Clear All Connectionを行う必要**がある場合があります。

Action	View	Debug	Help
Refresh Network Map			
Recall Connections			
Save Connections			
Clear Selected Connections			
Clear All Connections			

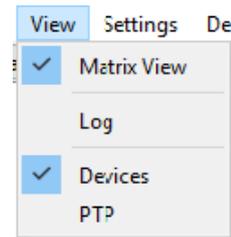


Clearing selected / all connections

ネットワーク上の選択した（または全ての）デバイスの全てのストリーマーとレシーバーを取り去ります。このアクションは、構成に悪影響を与える可能性のあるデバイスを「clean」するために使用できます。

View

このメニューの項目により、次のものを表示できます。マトリックス、ログ、デバイスまたはPTPタブ

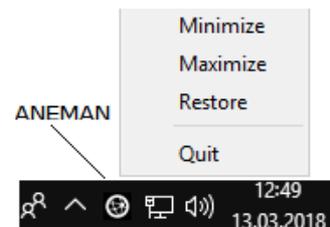
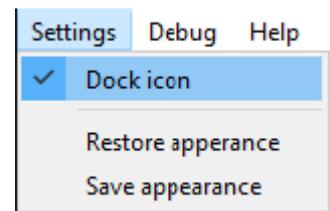


Settings

Dock icon

このオプションを選択すると、ANEMANは常にタスクとして実行されます。これは、サンプリングレートゾーンを使用していて、すべてのデバイスのサンプリングレートが常に適切に変化することを確認するときに便利です。

このオプションを有効にしてANEMANを閉じると、タスクバーで実行され続け、マウス+右クリックメニューからANEMANを最大化できます。



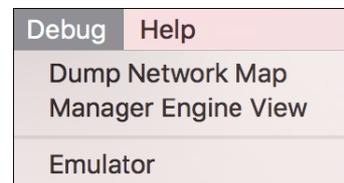
Restore or Save appearance

これらのオプションにより、ANEMANの外観を保存または復元することができます。

Debug

Log Window

Viewメニューからlogウィンドウを表示させることができます。このウィンドウにはネットワーク上で発生したイベントの履歴が表示されます。現状(beta 2)ではデバイスの検出(ANEMANで追加または削除されたデバイス)のみが表示されます。



Dump Network Map

バグと思える事象を発見した場合、またはソフトウェアの動作が理解できない場合、DebugメニューのDump Network Mapを行い、作成されたレポートを弊社に送信してください。

Plugins

プラグインのマネージメントとデバイスアイコン



ANEMANには、アクションメニューからアクセス可能なプラグインマネージャーが組み込まれています。プラグインマネージャーを開くと、現在インストールされているプラグインと使用可能なプラグインのステータスを示すウィンドウが表示されます。プラグインごとに、このプラグインでサポートされているデバイスのアイコンをダウンロードできます。

Plugins				Icons	
Name	Description	Stability	Installed		
montone42	Proxy for the DirectOut Technologies MONTONE.42.	experimental	UP TO DATE	DirectOut Technologies Montone.42	Downloaded
proxy_archwave	Proxy for the Archwave uNet boards and products	release	UP TO DATE	GENELEC 8430A	Downloaded
				Ward-Beck Systems PreMo	Downloaded

NOTE : プラグインマネージャーを機能させるには、インターネット接続が必要です。新しいプラグインをダウンロードした後、ANEMANを再起動する必要があります。

Plug-insの消去

Plug-insを消去するには、下記のディレクトリーからファイルを消去してください。

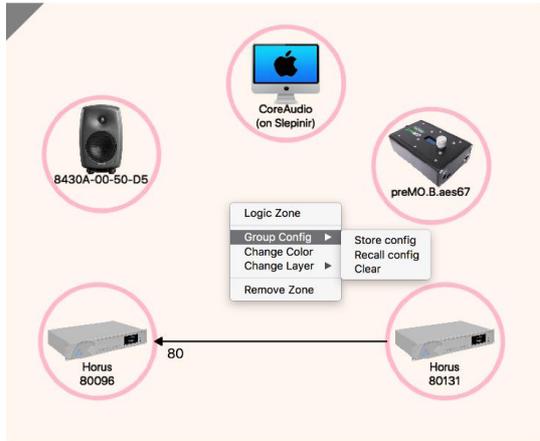
Windows: c:\Users\\AppData\roaming\Merging Technologies\aneman\plugins

Mac: /Users/<username>/ Merging Technologies/aneman/plugins



Zones

Advanced configuration of zones



ゾーンを使用してパッチとデバイスのグループ化を管理できます。

Change color : グループの色を更新します

Store config : グループ設定（名前と宛先IPを含むストリーマレシーバ）とサンプリングレートを保存する

Recall config : グループ設定を復元します。
これによりそれまでの設定は消去されます

Clear : 現在のグループ設定を消去します



Easy Connect Replacement

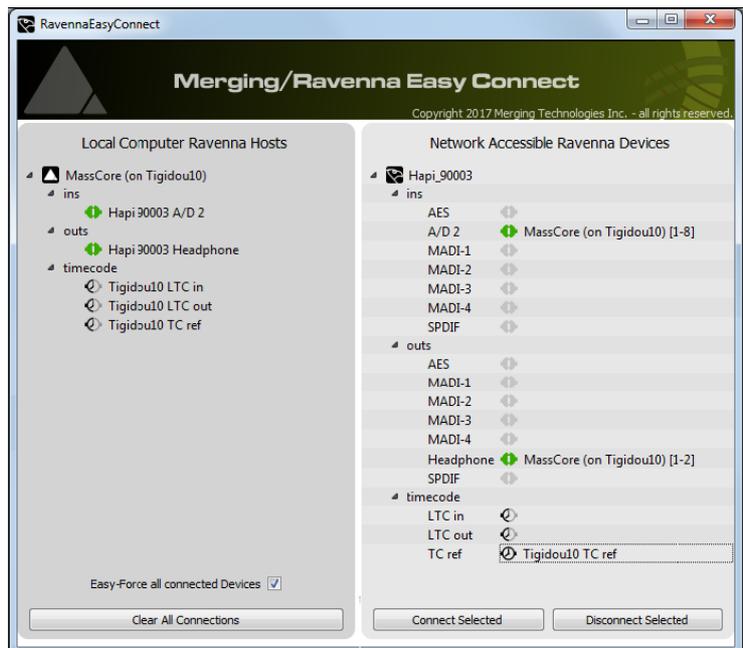
ANEMANをPyramix/OvationのEasy Connectの代わりに使用する
Inputs と Outputsのコネクション :

Easy Connect:

ADモジュールとヘッドフォンのコネクション例。

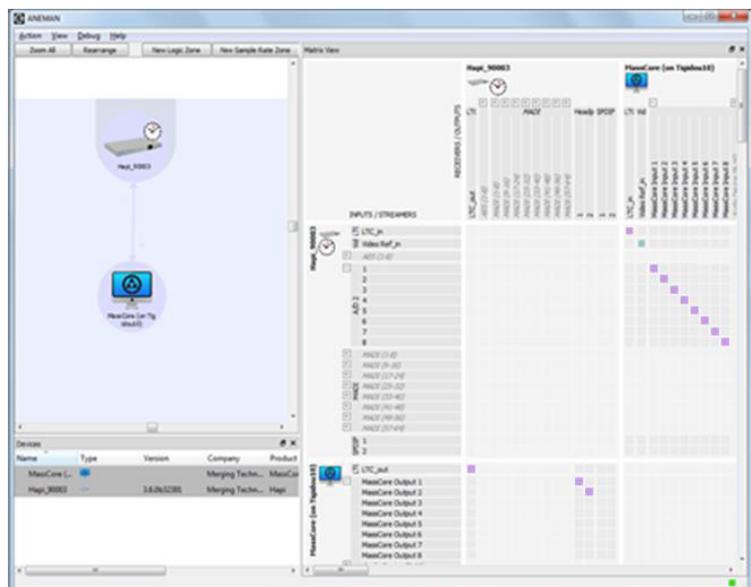
Horus/Hapiのインプット モジュールは右側にInput、Outputモジュールの順にあります。

8チャンネルのバンクでのみ接続されます (ヘッドフォンを除く)。



ANEMAN:

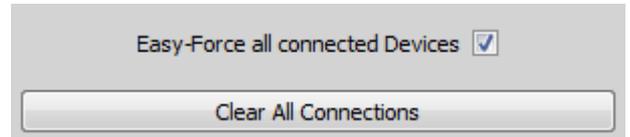
同様のモジュールを接続するには、まずANEMANゾーンビューでHapiとMassCore (またはASIO) の両方の項目を選択する必要があります。モジュールの接続は、折りたたまれていない状態、折りたたまれた状態、シングルチャンネルまたは8チャンネルのバンクで行うことができます。Matrix Viewの右側にあるInput Streamer (例: AD8 Hapi) と、Matrix Viewの上部行にあるOutput Receivers (例: Hapiヘッドフォン)





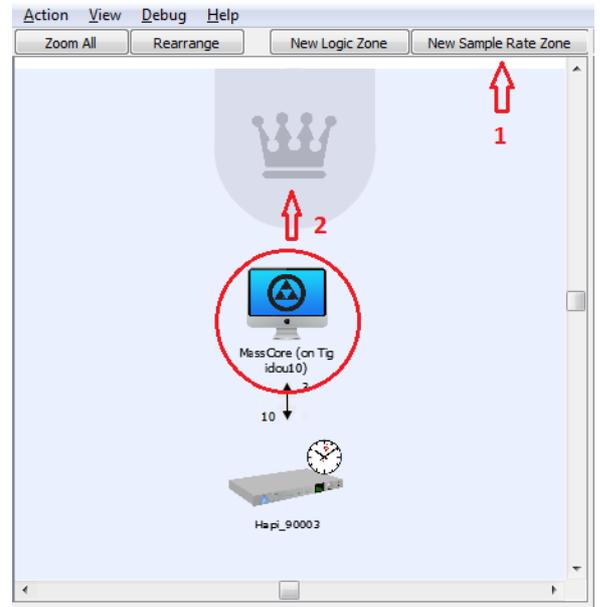
Force devices to follow the same sampling rate:

Easy Connct: “Easy-Force all connected Devices”のチェック・ボックスがあり、サンプリングレートまたはフレーミング（Latency Mode）を同じにさせます。



ANEMAN: 最初のベータバージョンのANEMANでは全てのデバイスを強制的に同じサンプルレートにします。Framingモードではそうはならず、デバイスでマニュアルに設定します。

ANEMANでForce Sampling Rateを行うには、全てのデバイスが同じサンプルレートを持つ特別なLogic Zoneである新しいSample Rate Zoneを作成する必要があります。



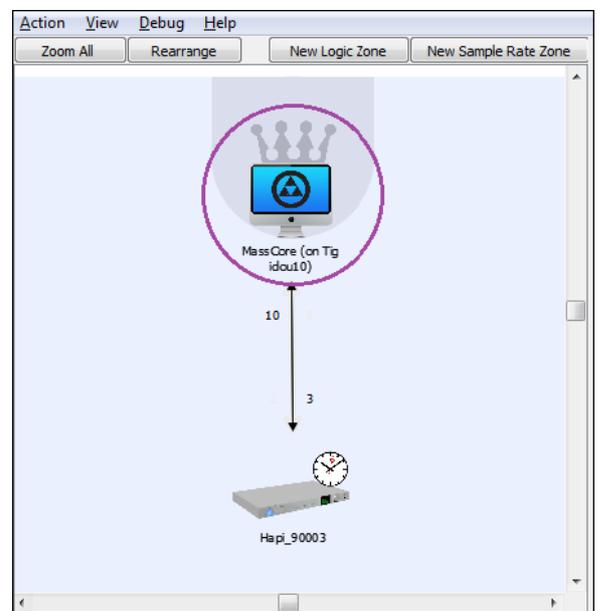
グループ内のいずれかのデバイスをマスターとして選択し、ゾーンの上部中央（マスターゾーン）のクラウンに配置します。この例ではMassCoreを使用します。



Zoneにある他のデバイスはスレーブとなります：

- Masterのサンプルが変わるとSlaveも変わります。
- Slaveのサンプルレートを変更すると強制的に戻されます。

注意：デバイスによりゾーンのサンプルレートに追従できないものもあり、*Master*に常に追従できないこともあります。



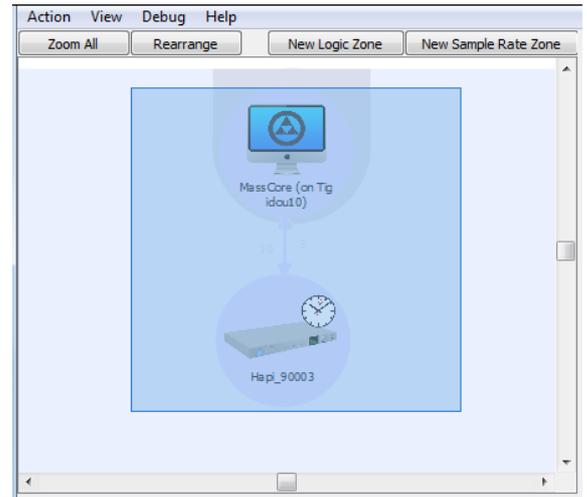


How to Clear Connections:

Easy Connect: “Clear All Connections”がある他、CTRL + “Clear All Connections”でネットワークの全ての接続をクリアできます。

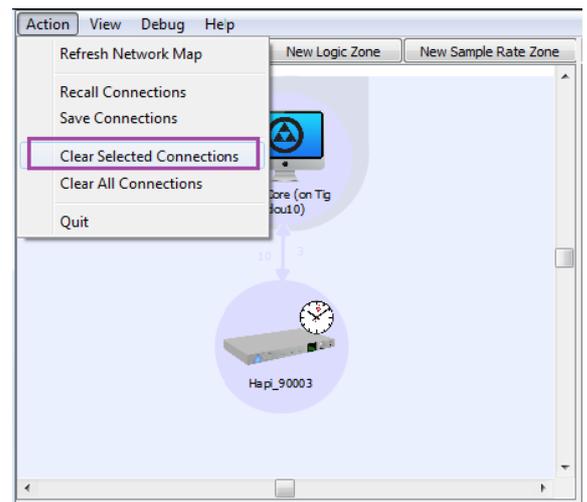
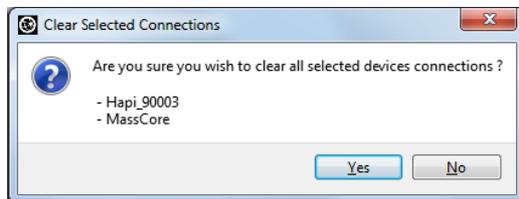


ANEMAN: コネクションをクリアするためには、クリアしたいデバイスがあるZoneビューを選択しなければなりません。



デバイスを選択したら、Actionメニューで“Clear Selected Connections”を選択します。これにより選択したデバイスの接続がクリアされます。

このアクションの確認をする必要があります。



ANEMANには、ネットワーク上に存在するすべての接続をクリアするので、特別な注意を払って処理する必要があるClear All Connectionsもあります。



ビデオ リファレンス, LTC In, LTC Outのコネクション :

Easy Connect

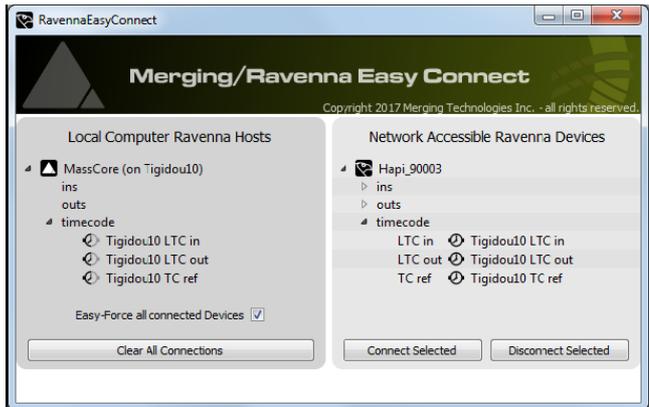
Horus / Hapiのタイムコードとビデオ RefはRAVENNA Easy Connectで行えます :

LTC in: LTC / TimeCodeを受信するには、コネクションを有効にする必要があります。

LTC out: LTC / TimeCodeを出力するには、コネクションを有効にする必要があります。

TC ref: Video Refを受けるには、コネクションを有効にする必要があります。

注意 : MassCore TimeCodeをHorus Video Inにロックするには、TC refオプションを有効にする必要があります。Horus / Hapi同期ポートのVideo Ref入りにリファレンスが入力されていない場合は、MassCore Video RefインジケータがPyramixで黄色に点滅します。



ANEMAN

LTC in: LTC / TimeCodeを受信するには、コネクションを作成する必要があります。

手順 : ハードウェアデバイスのInputs Streamers LTC_Inのエントリを選択し、LTC_InとしてリストされているMassCore Receivers / Outputsに接続してください。接続すると、色が緑色に変わります。



LTC out: LTC / TimeCodeを出力するには、コネクションを作成する必要があります。

手順 : MassCoreデバイスのInputs Streamers LTC_Out エントリを選択し、LTC_Outとしてリストされているハードウェアレシーバ出力に接続してください。接続すると、色が緑色に変わります。





TC ref: Video Refを受けるには、コネクションを作成する必要があります。

手順：ハードウェアデバイスのInputs Streamers Video Ref_inエントリを選択し、それをVideo Ref_inのMassCore Receivers / Outputsに接続してください。接続すると、色が緑色に変わります。

注意：MassCore TimeCodeをHorus Video Inにロックするには、TC refオプションを有効にする必要があります。Horus / Hapi同期ポートのVideo Ref入力にリファレンスが入力されていない場合は、MassCore Video RefインジケータがPyramix上で黄色に点滅します。



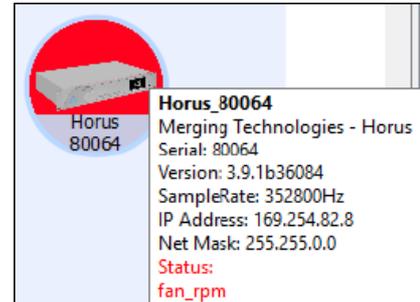


トラブルシューティングとエラー

ANEMANで報告されるError

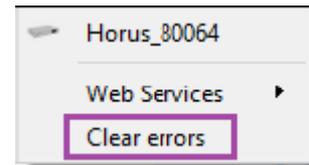
ANEMAN 1.1.6バージョンでは、いくつかのエラーがUI上で直接報告されます。

エラーを確認するには、マウスポインタを赤いエラーの上に置いてください。1秒以内にメッセージボックスが開き、エラーが表示されます。



マウス+右クリックのコンテキストメニューからエラーをクリアできます。

注意：これはデバイスエラー通知メッセージをクリアしませんが、エラーが再度発生する場合は、ANEMANはエラーを報告します。問題が解決した場合、ANEMANはエラーを報告しなくなります。



その他のエラーの例：デバイスのフレームモードが他と一致しない場合（ASIO RAVENNAとHapiで設定が違うなど）、ANEMANはデバイスを赤く点滅させてエラーを報告します。

注意：適切なエラーを報告させるために、常に最新のHorus & Hapiファームウェアを使用してください。



コネクションできない

接続できない場合は（接続したいセルに赤いハイライト表示）、以下を確認してください：

- インプット、アウトプットの両方のデバイスは、同じサンプリングレートでなければならない。
- インプット、アウトプットの両方のデバイスは、同じサブネットに存在しなければならない。

これら2つの条件が満たされている場合、受信デバイスの設定ページを開くことができます。出力がビジー状態の場合（たとえば、受信者が出力に設定されている場合）、ソフトウェアは接続を許可しません。

解決法：Actionメニューの"clear device connections"を使用して、すべてのストリーマーと受信機をそのデバイスから削除します。

注意：これにより、他のデバイスも接続をクリアする必要があります。

ストリーマー / レシーバ エラー コード

Streamer Errors

Error -1, "Unknown error"

ANEMANをリスタートさせてください。もしエラーが続く場合はStreamデバイスを再起動してください。

Error -99, "Can not add streamer, check streaming device status"

デバイスが処理できるストリーマーの最大数に達しました。次の手順を実行して、ネットワークを統合してみてください：

ストリーミングデバイスと同じネットワーク内のすべてのデバイスを選択する

これらのデバイスの接続を保存する (action -> save connections)

これらのデバイスをクリアする (action -> clear selected connections)

接続をリコールする (action -> recall connections)

Error -100, "Streamer input not found" Channel mapped to unexisting input

コネクションのコンポーネントの1つが使用できません。

ASIO : Merging RAVENNA ASIOパネルで十分な入力と出力を定義していることを確認してください。定義されている以上の接続はできません。

例：8つの出力しか設定されていない場合、8つの出力のグループをマップすることができます。

また、入力と出力の数はサンプリングレートに依存することに注意してください。

CoreAudio : Merging RAVENNA ASIOパネルで十分な入力と出力を定義していることを確認してください。

例：8つの出力しか設定されていない場合、8つの出力のグループをマップすることができます。

以前に接続したRAVENNA入力または出力は、RAVENNAネットワークでは使用できなくなりました。

例：AES1出力に接続し、後でRAVENNAネットワークから削除する場合は、デバイスモジュールメニューに再割り当てします。

Error -101, "Streamer configuration is wrong, check streamer"

ストリームに割り当てられたチャンネルの順序が間違っています。デバイスのAdvancedページを確認してください。



Error. -102. "Streamer input is not connected"

チャンネルがストリーマにマッピングされていない場合は、デバイスのAdvancedページを確認してください。

Error. -103. "Streamer input not found"

ストリーマに関連付けられた入力が見つからない場合は、デバイスのAdvancedページを確認してください。これは、ストリーマが最初に設定されたときと比べて、I/Oモジュールがないか、サンプルレートが異なることが原因です。

Error. -104. "Streamer multicast address is already used, check streamer configuration"

ストリーマのマルチキャストアドレスがすでに使用されています。デバイスのAdvancedページでマルチキャストアドレスを変更するか、ANEMANで接続を削除 / 再作成してください。

Error. -105. "Streamer multicast address is undefined, check streamer configuration"

ストリーマにはマルチキャストアドレスがないため、ネットワークにデータを送信できません。デバイスのAdvancedページでマルチキャストアドレスを変更するか、ANEMANで接続を削除 / 再作成してください。

Error -106. "Stream format incompatible with input, check device configuration"

オーディオCODECが同じではありません。 eg PCM vs DSD .

Receiver Errors

Error. -1. "Unknown error"

ANEMANをリスタートさせてください。もしエラーが続く場合はStreamデバイスを再起動してください。

Error. -10. "Stream statistics can not be sent or received, check receiving device"

レシーバーがそのStaticsを送れません。ネットワークの構成と受信デバイスをチェックしてください。

Error -19. "Stream Sample rate is wrong, check sample rate status and groups"

RAVENNAデバイスとホストのサンプリング レートが合っていません。

デバイスとホストに必要なサンプリング レートをセットしてください。

ANEMANのグループを使い、RAVENNAデバイスをホストのサンプリング レートに合わせることもできます。

RAVENNAデバイスを複数のホストと共有している場合、ホストが同じサンプリング レートになっているかを確認してください（または同じ全てのANEMANグループ）。

Error -20 "Channel error is wrong, check streamer configuration"

入力のチャンネル数と出力のチャンネル数が合っていません。

Error. -21. "Wrong PTP clock, check PTP status"

ストリーミング デバイスとレシービング デバイスが同じクロックか確認してください。

Error. -22. "The stream payload is bad, check streamer configuration"

"Streamerを出力に割り当てることはできません。受信デバイスのルーティングを確認してください"

チャンネルマップの衝突

入力（ソース）をすでに使用中の出力（シンク）にルーティングしています。

入力を複数の出力にルーティングできますが、複数の入力を1つの出力にルーティングすることはできません。

使用可能な出力を使用します。



出力を切断し、必要な入力に接続します。

Error, -94, "Unicast Error, stream not supported by HAPI or HORUS, please check device"

このエラーはユニキャストエラーを示しています。ANEMANの使用でこのエラーが発生することはありません。

Error, -95, "Unicast stream address mismatch, check network configuration of receiver"

このエラーはユニキャストエラーを示しています。ANEMANの使用でこのエラーが発生することはありません。

Error, -96, "Can not get stream configuration, check network settings (firewall, subnets...)"

受信側がストリーミングエンドに接続してストリーム情報を取得できない場合は、次の点を確認してください。

デバイスは同じネットワークサブネット上にあります (IPとNetmaskはそれらの間の通信を許可します)

各デバイスにファイアウォールをブロックする接続はありません (これはバーチャルオーディオデバイスだけに適用されます)

Error, -97, "Bad stream info, check streamer configuration"

このエラーは、ほとんどの場合、相互運用性の場合 (マーキング以外のRavennaまたはAES67デバイス) に現れます。受信者によって取得されたストリーム情報が間違っているかSDP情報を確認してください。エラーがある可能性があります。

Error, -98, "Can not add receiver, check receiving device status"

デバイスが受信可能なストリームの最大数を超過している可能性があるため、次の手順を実行してネットワークを統合してください :

同じネットワークのストリーミング デバイスをすべて選択してください。

デバイスの接続を保存してください (action -> save connections)

デバイスをクリアする (action -> clear selected connections)

接続をリコールする (action -> recall connections)

Error, -99, "Bad stream info, check streamer configuration"

SDPファイルにエラーがあります。

Error, -100, "Receiver configuration is wrong, check receiver"

ストリームに割り当てられたチャンネルの順序が間違っています。デバイスのadvancedページを確認してください。

Error, -101, "Receiver output is not connected"

チャンネルが受信機にマップされていません。デバイスのadvancedページを確認してください。

Error, -102, "Receiver output not found"

受信機に関連付けられた出力が見つかりません。デバイスのAdvancedページを確認してください。これは、ストリーマが最初に設定されたときと比べて、I/Oモジュールがないか、サンプルレートが異なることが原因です。

Error -103, "Receiver output not found"

チャンネルが存在しない出力にマップされています。

接続のコンポーネントの1つが使用できません

ASIO: Merging RAVENNA ASIOパネルで、十分な入力と出力を定義していることを確認してください。定義されている以上の接続はできません。

例 : 8つの出力しか設定されていない場合、8つの出力のグループをマップすることができます。

また、入力と出力の数はサンプリングレートに依存することに注意してください。



CoreAudio : Merging RAVENNA ASIOパネルで十分な入力と出力を定義していることを確認してください。

例 : 8つの出力しか設定されていない場合、8つの出力のグループをマップすることができます。

以前に接続したRAVENNA入力または出力は、RAVENNAネットワークでは使用できなくなりました。

例 : AES1出力に接続し、後でRAVENNAネットワークから削除する場合は、デバイスモジュールメニューに再割り当てします。

Error, -104, "Stream format incompatible with input, check device configuration"

オーディオCODECが同じではありません。 eg PCM vs DSD .

Error, -105, "Receiver configuration is wrong, check receiver"

チャンネルマップはサポートされていません。これは、受信機のサンプルレートの変更によって発生する可能性があります。



Debug features

ログウィンドウは、デバッグの目的で使用され、マネージャのコアエンジンによって提供されるメッセージの履歴 (infos、warning、errors) を関連付けます。

Simulation files

シミュレーションファイルは、セットアップの準備やソフトウェアのテストに使用できます。

シミュレーションファイルは、RVMG.configで定義されているSimulationDirectoryに配置する必要があります

シミュレーションファイルはデバイスのJSON表現でなければなりません。変更は.saveの後に拡張子.saveが付き、別のファイルとして保存されます。

Configuration file

RVMG.configファイルには、ソフトウェアの設定が可能なJSONオブジェクトが含まれています：

```
"PluginDirectory" : "/Users/home/plugins",
```

```
"SimulationDirectory" : "/tmp/sims",
```

```
"LogDirectory" : "/tmp",
```

```
"BreakStreamsForOptimize" : "yes",
```

```
"LogDevices" : "yes"
```

ファイルの変更は、自己責任で行ってください。